

# *QuattroJ* 初期設定ガイド

---

2004年 11月

## 目次

---

1. 初めに.....	1
2. Post.Office 設定.....	2
3. QuattroJ の設定.....	3
3.1. QuattroJ の管理者パスワード設定.....	3
3.2. 判定設定.....	4
3.3. 判定エンジン設定.....	5
3.4. 学習管理.....	6
3.5. 履歴管理.....	8
3.6. 辞書のメンテナンス(DB 管理).....	9
4. メーカーの設定.....	11

## 1. 初めに

QuattroJ はスパム判定エンジンですが、QuattroJ 自身で、スパムメッセージを削除したり、ブロックを行うわけではありません。QuattroJ では、スパム判定を行った結果をメッセージヘッダに埋め込み、通知するのみとなります。

スパム判定の結果は、X-Header、または、Subject: 内容へのプレフィックスとしてメッセージに埋め込まれます。

メッセージの振り分けは、メーラ側でこれらの判定結果を参照して行う必要があります。(メッセージを振り分ける機能を持ったメーラが必要になります)

Microsoft Outlook や、Outlook Express では、X-Header には対応していないため、Subject: のプレフィックス内容で振り分け設定する必要があります。Bekey!等では、X-Header による振り分けが可能です。

QuattroJ をご利用になるためには、以下のアプリケーションでそれぞれ設定が必要です。

Post.Office の設定

QuattroJ の設定

メーラの設定

本ドキュメントでは、QuattroJ を利用するための基本的な設定について説明します。

## 2. Post.Office 設定

Post.Office v3.9 を新規にインストールした状態では、QuattroJ 機能は無効に設定されています。QuattroJ 機能を有効にする場合は、Post.Office 管理画面から、システムコンフィグレーション - QuattroJ の設定画面を開き、「QuattroJ ジャンク判定を有効にする:」を「はい」に設定します。

QuattroJ を Post.Office とは異なるサーバ上で稼働させている場合には、「QuattroJ Server ホスト:」に該当ホスト名を設定します。

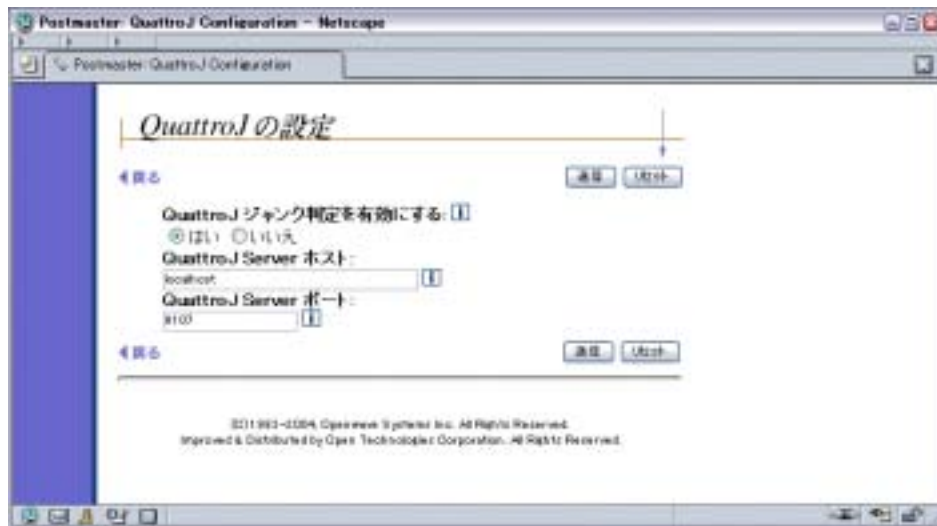


図1 [QuattroJ の設定]画面

### 3. QuattroJ の設定

#### 3.1. QuattroJ の管理者パスワード設定

メニューリストから「アカウント設定/判定情報」を開くと次の画面が表示されます。



図2 [アカウント設定/判定情報]画面

「アカウント設定/判定情報」で QuattroJ のパスワード設定を行います。  
反映するには、入力後、[更新]ボタンをクリックします。

### 3.2. 判定設定

メニューリストから「判定設定」を開くと次の画面が表示されます。



図3 [判定設定]画面

(1) 「ジャンク判定時、元のメッセージを添付にする」

デフォルトは、ジャンク（スパム）判定時に元メッセージを添付「する」にチェックされています。元メッセージを必要としない場合は、「しない」にチェックします。

(2) 判定結果の通知

判定結果は、X-Header と Subject:内容のプレフィックスとして付加する方法があります。

メールでX-Header による振り分けを利用したい場合は、「判定結果をX-Header として付加」を「する」にします。（デフォルト）

X-Header 名は、デフォルトで「X-QUATTROJ-JUDGE」に設定されていますが、「X-Header 名」の設定を変更することにより、任意のX-Header 名に変更可能です。

スパムのステータス(X-Header の値)を「ジャンク ステータス」と定義し、デフォルトで「JUNK」に設定されていますが、「SPAM」等に設定値を変更可能です。

デフォルト設定では、スパム判定されたメッセージのヘッダに以下の行が付加されます。

X-QUATTROJ-JUDGE: JUNK

スパム判定が通常のメールと判定した場合のステータス内容(X-Header の値)を「ノーマル ステータス」と定義し、デフォルトで「NORMAL」となっています。この値は、変更可能です。

デフォルト設定では、ノーマル判定されたメッセージのヘッダに以下の行が付加されます。

X-QUATTROJ-JUDGE: NORMAL

Subject:内容のプレフィックスとして「ジャンク ステータス」を付加したい場合には、「ジャンク時、Subject にプレフィックスを付加」を「する」（デフォルト）にします。

ジャンク判定時 (ジャンク ステータス)の Subject:内容のプレフィックスは「Subject のプレフィックス:」で設定可能でデフォルトで「[SPAM]」となっています。

設定内容を反映する場合には、[更新]ボタンをクリックします。

### 3.3. 判定エンジン設定

メニューリストから「判定エンジン設定」を開くと次の画面が表示されます。



図4 [判定エンジン設定]画面

判定エンジン設定画面では、スパム判定を行う計算式の係数を設定することができます。デフォルトの設定では、Paul Graham氏が提唱するベイズの定理に従っています。(同定理は、Paul Graham氏の論文"A Plan For Spam"で説明されています)各係数を変更する場合には、ベイズの定理を十分理解した上で行ってください。

QuattroJは、ベイズ理論をベースとしたスパムフィルターであるため、現時点では、ショートメッセージに対する判定計算ができません。これは、ベイジアンフィルターの特徴ですが、将来のリリースでショートメッセージに対しても独自の方法で対応する予定です。

現在のバージョン 1.0.0では、ショートメッセージの振り分け通知を「ノーマル ステータス」か、「ジャンク ステータス」に固定することが可能です。

「本文中にトークンが含まれない場合はジャンクと判定」で「する」に設定するとショートメッセージの判定が「ジャンク ステータス」として扱われます。逆にショートメッセージの判定を「ノーマル ステータス」としたい場合には、「しない」(デフォルト設定)に変更し、[更新]ボタンをクリックします。

### 3.4. 学習管理

メニューリストから「学習設定」を開くと次の画面が表示されます。



図5 [学習設定]画面

QuattroJ Deploy Tool には、事前に既存のスパムメッセージや通常のメッセージを学習させた辞書が含まれています。事前学習させた辞書を使うことにより、導入直後からスパム判定ができるようになっていますが、企業によってはこの組込みの辞書では必ずしも適合しない場合もあります。

たとえば、電子業界と医薬品業界では業務内容が異なるため、判定の対象となるトークン(単語)の扱いも異なってきます。この影響を小さくするためには、辞書を追加学習させ、企業の業務内容に適した辞書に育てていく必要があります。

#### (1) 追加学習のリクエスト

QuattroJ には、判定計算を行うための情報として、通常のメールの特徴を蓄積したノーマル辞書と、ジャンク(SPAM)メールの特徴を蓄積したジャンク辞書を持っています。それぞれの辞書に、新たにメッセージを追加学習させることにより、企業の業務内容に適した判定が行われるようになります。

通常のメールがスパムと判定されてしまった場合には、該当メッセージをノーマル辞書に学習させます。逆に、スパムメールが、ノーマルメールと判定されてしまった場合には、該当メッセージをジャンク辞書に学習させます。

辞書に追加学習させるためには、QuattroJ の管理アカウント宛に該当のメールを転送します。(メールの転送機能を使って送信します)

ノーマル辞書学習用の管理アカウントと、ジャンク辞書学習用の管理アカウントが、それぞれ Post.Office の予約アカウントとして事前に用意されています。

ノーマル辞書学習用の管理アカウント: qjnormal

ジャンク辞書学習用の管理アカウント: qjspam

もし、これらのアカウントパスワードを Post.Office 側のアカウント設定で変更した場合は、「ジャンク学習用パスワード」、「ノーマル学習用パスワード」で新しいパスワードを設定します。

尚、上記管理アカウント宛にメールを転送しただけでは、辞書には反映されません。

メール転送後に、自動学習、または手動学習が実行されることにより辞書に反映されます。



(2) 自動学習

インストール後の初期設定では、QuattroJの「自動学習」設定は、「しない」に設定されています。「する」を選択することで、自動学習が行われるようになります。

自動学習とは、qjspam と qjnormal 宛に送信されたメールを自動的に辞書に学習させる機能です。自動学習による辞書への学習は所定の間隔で実行されます。この実行間隔は、「学習間隔 (時間)」で設定することができます。

(3) 手動学習 (メール確認)

qjspam と qjnormal に送られたメールは、「メール確認」で参照することができます。

メニューリストから「学習設定」を開くと次の画面が表示されます。



図6 [メール確認]画面

qjspam に送られたメールは、「アカウント」の「ジャンク学習用」をチェックし、[受信]ボタンをクリックします。

qjnormal に送られたメールは、「アカウント」の「ノーマル学習用」をチェックし、[受信]ボタンをクリックします。

メール内容を確認するには、各々のメールの Subject:内容をクリックします。

またメールを手動で学習させたい場合には、各メールの左側のチェックボックスをクリックし、[学習]ボタンをクリックします。

### 3.5. 履歴管理

メニューリストから「履歴一覧」を開くと次の画面が表示されます。



図7 [履歴一覧]画面

スパム判定の履歴を一覧表示して確認することができます。

履歴内容としては、判定内容、学習内容があり、それぞれ、JUNK と NORMAL の履歴を持ちます。

全判定履歴を確認する場合、「判定 ALL」をチェックします。

JUNK 判定履歴のみを確認する場合、「JUNK 判定」をチェックします。

NORMAL 判定履歴のみを確認する場合、「NORMAL 判定」をチェックします。

全学習履歴を確認する場合、「学習 ALL」をチェックします。

JUNK 学習履歴のみを確認する場合、「JUNK 学習」をチェックします。

NORMAL 学習履歴のみを確認する場合、「NORMAL 学習」をチェックします。

履歴の確認範囲は、「日付の範囲」で入力します。

例. 2004年10月1日から2004年11月17日までの履歴を確認する場合

[2004]/[10]/[01] ~ [2004]/[11]/[17]

1ページあたりの表示件数は、「表示件数」で設定します。

### 3.6. 辞書のメンテナンス(DB 管理)

学習では、メールを転送して簡単に行うことができますが、逆に意図しない単語が登録されてしまう場合があります。(メールを転送する時点でメール内容を編集することも可能です)

学習された辞書を編集したい場合、「DB 管理」で行います。

#### (1) 判定対象トークンの編集

判定計算の対象となるトークン(単語)の編集は、「判定対象トークンの編集」で行います。

メニューリストから「判定対象トークンの編集」を開くと次の画面が表示されます。



図8 [判定対象トークン編集]画面

ある単語を判定計算から削除したい場合、「検索トークン」にその単語を入力します。

学習されたデータを「JUNK 事前学習」、「NORMAL 事前学習」、「JUNK 学習」、「NORMAL 学習」でフィルタリングすることもできますが、通常、「ALL」で構いません。

「事前学習」は出荷時のデータが保存されたテーブルで、「学習」は学習機能により追加学習されたデータのテーブルです。

「検索トークン」に検索したい単語を入力し、[検索]ボタンをクリックすると

No. 削除 対象外に移動 モード 判定対象トークン 回数

の順で表示されます。

「削除」のチェックボックスをチェックし、[削除]ボタンをクリックすると該当トークン(単語)は、DBより削除されます。

ここで、「対象外に移動」にチェックし、[移動]ボタンをクリックすると該当トークン(単語)は、「判定対象外のトークン」(単語)として扱われるようになります。

メールに「判定対象外のトークン」が含まれていた場合、そのトークン(単語)は、判定計算に用いられません。

(2) 判定対象外トークンの編集

判定対象外トークンの編集は、「判定対象外トークンの編集」で行います。

メニューリストから「判定対象外トークンの編集」を開くと次の画面が表示されます。



図9 [判定対象外トークン編集]画面

判定対象外トークンの追加

[追加]ボタンをクリックします。

「判定対象外トークン」に追加したい単語を入力し、[追加]ボタンをクリックします。

判定対象外トークンの削除

登録されている「判定対象外トークン」を削除する場合、該当トークン(単語)の削除チェックボックスをチェックし、[削除]ボタンをクリックします。

## 4. メーラーの設定

QuattroJ によるスパム判定の結果は、X-Header、または、Subject: 内容へのプレフィックスとしてメッセージに埋め込まれます。メーラ側で QuattroJ の判定結果を参照して振り分けるための設定を行う必要があります。

振り分けの設定方法はメーラー毎に異なりますので、各メーラーのマニュアルを参照してください。

### (1) Outlook Express で振り分けを行う例

Outlook Express では、X-Header による振り分けができないため、Subject: のプレフィックスにより振り分けを行います。

事前に、QuattroJ の判定設定で、「ジャンク時、Subject にプレフィックスを付加」を「する」に設定しておきます。

Subject にはデフォルトの [SPAM] という文字列が付加されているものとします。

1. メニューから、「ツール」 「メッセージルール」 「メール」を選択します。
2. 新規作成をクリックします。
3. ルールの条件に「件名に指定した言葉が含まれる場合」をチェックします。
4. ルールのアクションに「指定したフォルダに移動する」をチェックします。
5. 指定した言葉に、[SPAM] を指定します。
6. 指定したフォルダに、スパムメールを格納するフォルダ名を指定します。

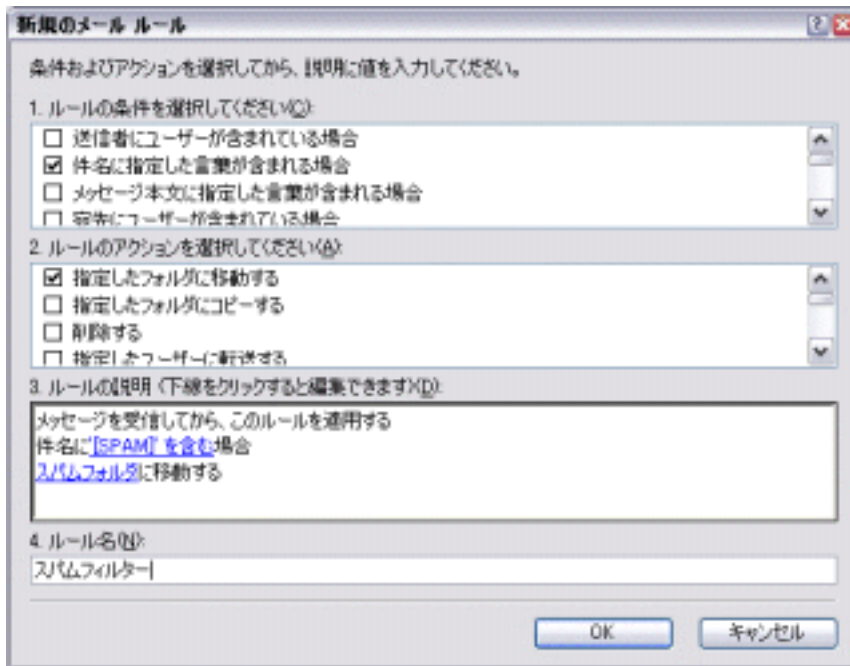


図 1 0 Outlook Express のルール設定画面